

**製品名: HAUSP マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM80799**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	128kDa

**抗原情報**

遺伝子名	HAUSP
別名	TEF1; HAUSP; USP7
遺伝子 ID	7874.0
SwissProt ID	Q93009
免疫原	大腸菌で発現したヒト HAUSP の精製された組み換え断片。

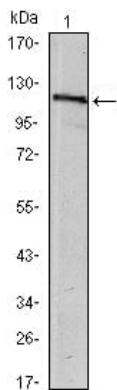
**背景**

USP7 または HAUSP は、ユビキチン特異的プロテアーゼ、またはユビキチンを基質から切断する脱ユビキチン化酵素です。ユビキチン化（ポリユビキチン化）は細胞タンパク質の安定化と分解に最もよく関連しているため、HAUSP の活性は一般にその基質タンパク

質を安定化させます。HAUSPは、腫瘍抑制タンパク質 p53 の E3 ユビキチンリガーゼである Mdm2 の直接的な拮抗薬として最もよく知られています。通常、p53 レベルは、Mdm2 を介した p53 のユビキチン化と分解により、低く抑えられています。興味深いことに、発癌性刺激に対して、HAUSP は p53 を脱ユビキチン化し、Mdm2 を介した分解から p53 を保護することができます。これは、ストレスに応答して p53 を即座に安定化させる腫瘍抑制機能を有する可能性を示しています。HAUSP 機能のもう一つの重要な役割は、p53 の発がん性安定化です。Myc や E1A などのがん遺伝子は、p19 代替読み枠 (p19ARF、別名 ARF) 依存性経路を介して p53 を活性化すると考えられていますが、ARF はこのプロセスに必須ではないことを示唆する証拠もあります。興味深い可能性として、HAUSP が細胞を発がん性刺激から保護するための代替経路を提供していることが挙げられます。

## 研究分野

## 画像データ



MCF-7 (1) 細胞溶解物に対する HAUSP マウス mAb を用いたウエスタンブロット解析。